



二〇二一年四月二日発行

世俗の君子幸臨し
勅して浄土のゆきをよら
十方仏国浄土なり
なによりてか西にある
鸞師こたへてのたまはく
わが身は智慧あさくして
いまだ地位にいらざれば
念力ひとしくおよばれず

高僧和讃 『曇鸞讃』

先日、三月二十六日、父 清聲院釋龍也の祥月命日でした。昨年、七回忌を迎え、家族一同、鹿児島府の稱讚寺で法要を行うため、参集したことでありました。あれから一年経つのですが、当時、COVID19の



春季彼岸会法要

2021年3月21日

COVID-19の禍中、お布施を申上げます。感謝の意を込めてお布施をさせていただきます。

発行 浄土真宗本願寺派 稱讚寺
〒二二一〇〇七五
東京都足立区一ツ家三丁目五番二〇号
TEL 〇三―五二四二―二〇二五
FAX 〇三―五二四二―二〇二六
HP shousanjii.com

感染の第一波が押し寄せる時期でありました。そのため、法要が終わっても、姉は実家に残り、未だ、東京には戻れない状況であります。

まる一年、このCOVID19の感染ばかりを気にしてか、今年で、父が往生してから本当に七年になるのかと、あやふやになってしまいました。

この一年はあつという間でありながら、振り返ると、法要は確かに減少はしましたが、COVID19の影響、姉が居ないことで、普段やらないこともしたようですが、自分の周りのことだけに気を取られていたようです。

この三月で、東日本大震災から十年、サリン事件から二十六年経ったことも、その日が近づいたころテレビの報道番組を見ていて、あー、もうそんなになるか」と改めて意識する始末です。

この間、宗門の機関誌『宗報』に、二十数年前からの知合いの僧侶の方（五十一歳）、全国的に布教活動に熱心に取り組んでおられた方のお名前が敬吊欄に掲載されているのが目にとまりました。

父をはじめ、ご縁のあった方々は既に仏さまに成られておられる、また成られようとされている、必ず成られる方なのでしようが、普段からそのことを念えない私であります。

標語のご和讃は、阿弥陀さまを念ずれば、全ての仏さまを念ずることになるとの意味ではなく、仏さまと成った父をはじめ、十方の仏さま方が、南無阿弥陀仏と化して、罪悪深重の凡夫”その意識さえない私を念じてくださっておられるのですね。

春季彼岸会法要

をお勤め致しました。

二〇二二年三月二十日(日)



三月二十一日(日)午後二時より、稱讚寺の春季彼岸会をおつとめいたしました。あいにくの雨模様で、仏旗は掲げませんでした。この調子ならどなたもお越しにならないだろうなと思っておりましたら、二時前で、四名の方が見えにられました。

前日、私は、千葉のお寺さまのお彼岸会法要に出講いたしました。お天気も良く、お墓参りの方も多くて、普段より集まりましたと、そのお寺さんもおっしゃられるように、三十名ほどのご門徒さんをご聴聞くださいました。内は明日なんですけど、お天気も雨模様ですから、もしかするとどなたも来れないかもしれませんと、お寺さんとお話していました。

山田昌三さん・高橋八重子さん・中木原乃既子さん・藪田佳之さん、ようこそようこそ、お参りくださいました。ありがとうございます。

皆さんで、『説阿弥陀経』のおつとめを致しまして、住職が三十分ほどお話させていただきました。

みほとけに「いだかれて」をご唱和いただき、終了させていただきます。

佐藤千鶴子さんより、参拝出来ないからと事前にご懇志を送ってくださいました。誠に有り難うございます。

住職の話

元首相の森氏が、女性を差別する発言からオリピック委員会の会長を降り、後継者を誰にするかの問題がありました。それは、女性を会長にすれば良いで、済む問題ではありませんでした。世界では、男性だから、女性だから、LGBTだからと、偏見を持たず、「多様性」を持たなければ、発展しないと言われています。

また、人種・民俗・出身地・学歴・宗教の違いを認め合い、共存していくことが望まれています。

そんな中、「物語りの多様性」ということもいわれているのですが、人それぞれの「救い」の物語りに共感することが、「多様性」を持つということなのかと疑問です。

先ほど、ご一緒におつとめいたしました『説阿弥陀経』をはじめ、『説無量寿経』『説観無量寿経』の「浄土三部経」は、お念仏による救いを物語っています。全ての生きとし生けるものが、救われるという物語そのものに「多様性」があるのです。それは言い換えれば、「普遍性」ではないでしょうか。

『説阿弥陀経』では、青色青光 黄色青光 赤色赤光 白色白光 微妙香潔」と説かれています。青い花は青い光を放ち、黄色い花は黄色い光を放ち、赤い花は赤い光を放ち、白い花は白い光を放ち、それ

ぞれが争うことなく、輝いている」というのです。

お浄土には、樹木が生えています。樹」とはその場を動くことは出来ませんが、体が不自由になられた浦上秀樹さんは「樹」を「すべてをうけいれる」とひらがな





で表現されました。

阿弥陀さまのお浄土は、「多様性」、つまり差別することなく、平等に、制限、条件もつけることなく、その人をそのまま、どこも否定することなく、全てを受け入れているところであることを説いておられるんですね。

また、お浄土には六種類の鳥が仏法を説いています。

かの国にはつねに種々奇妙なる雑色の鳥あり。白鶴・孔雀・鸚鵡・舍利・迦陵頻伽・共命の鳥なり」とあります。

その中、共命の鳥とは、頭が二つで体は一つの鳥です。この二つの頭は仲が悪かったのでしょうか。一方が食べ物を独り占めしようとして、もう一方を服毒死させました。独り占めに成功した瞬間、その頭も倒れてしまうのです。そういう鳥がお浄土にいるのです。これは何を表わしているのでしょうか。

私の「バのち」は私独りの「バのち」と思いますが、世々生々の父母兄弟」と言われるように、会ったこともない、世界中の、世代を超えて、本当は「バのち」は繋がっているのですよと説いてくださっているのでしょうか。

それは、自己中心ではない私に、自分だけが「と思うこと自体、実は他から影響され、影響していることを教えてくれているのではないのでしょうか。

続いて、お浄土には微風が吹いて、微妙の音楽

が流れています。

親鸞聖人は、ご和讃（『浄土和讃』）に、

清風宝樹をふくときは

いつつの音声いだしつつ

宮商和して自然なり

清浄薫を礼すべし

と詠われておられます。

私たちの世界では、本来、「宮」の音階と「商」の音階は、不協和音なのだそう。それがお浄土では、自然に和していると言われているのです。

相対する者、自己主張する者、孤独を楽しむ者、思想も主義も違うけれども、どんな方も、無理をすることなく、そこに居れるということでしょう。

そして、「六方段」のくだりがあります。六方とは東西南北・上下の世界のことで、十方世界と同じ意味です。『説阿弥陀経』では、東の世

界、西の世界、南の世界、北の世界、下の世界、上の世界に数え切れない仏さまがいらっしやう、どの仏さまも、「様にあなたは必ず西の阿弥陀さまにより、救われますよ」と仰ってくださいると説かれます。

これはどういうことでしょうか。六方の世界を一人の人生に例えると、東はこの世に生を受けた誕生を表わし、西はこの世での命を終える、つまり「死」を表わします。南は、一気盛んな状態でありますが、北は、病気になるたりして、塞ぎ込んでいる状態を表わしています。下は、何かに失敗して、自分を卑下している状態、上は成功して有頂天になっているのです。一生の間、この六

方を右往左往しているのが、私たちでありまして、そして、長い短いがあります、必ず西に向かう。つまり、自分は西には向かって

てない、上を向いているとか、昔を懐かしみ、あの頃に戻りたいと思ったり、若返りたいと思っても、必ず「死ぬ」ということです。

「死」と言われると、私は恐れおののきます。死の方向が何故、西なのか？西という漢字は、鳥が自分の巢で羽を休めている状態が語源になっている象形文字です。私たちも自分の部屋で、他を気にせず、寝そべっている状態はどういう思いでしょうか。そう、安心しているということ。恐れおののいている「死」ですが、本当は最も安心する世界なのでしょう。そこに自然と向

かっている私たちです。今、私がどんな状態であろうと、例えば、病気で北の方に居ようが、人に嫌われ、下の方で、悩んでいるようが、褒められ有頂天になっていようが、そこには、いつも仏さまがいらっしやう、この私に、大丈夫だよ、必ず西方浄土の阿弥陀さまがあなたを仏さまにしてください」と呼び続け

ておられると説かれています。この物語を世間に当てはめると、どの時代であっても、誰もが、仏さまになっていくのが真理であると説かれているのではないのでしょうか。

思想も主義主張も宗教も違うけれども、生き方も違っても、生きた時代も違っても、生き方

も違っても、皆、仏さまに成っていく。そのことを「自然の浄土」と親鸞聖人は表現していると思えます。

自分勝手に浄土真宗から見た解釈だと思ひ込んで、手前味噌なことを申しているのかもしれない。

救いの物語の中に多様性・普遍性があるのであ

り、多様な救いの物語を理解することではないと思

歎異抄 第四条)に、慈悲に聖道・浄土のかりめあり」とあります。外に慈悲を大・中・小に分けても解釈されています。

「小悲」とは、衆生縁と言われています。縁とは対象の意味だと言われます。つまり、人同士、生きとし生ける者の間で交わされる、情や行為を指します。その慈悲は、最も小さな慈悲と言われます。

親鸞聖人は、『愚禿悲歎述懐』に、
小慈小悲もなき身に
有情利益はおもふまじ
如来ノ願船いまさずは

苦海をいかでかわたるべき
と詠われておられますが、人情とか、ボランティア精神とか、人を愛するとか、ぬくもりとか、素晴らしいものだと思います。

「中悲」とは、『法縁』と言います。教えに基づく慈悲ということだと思います。仏教以外に、キリスト教、イスラム教、ヒンズー教、いろいろな宗教・宗派があります。宗教に限らず、儒教とか道教、朱子学、倫理・道徳、哲学・思想など、自分が人生の糧とする教えにであうことだと思います。これが、中ぐらいの慈悲と言われるのは、その教えにであわなければ、意味がないことか

ら、どうしても限界があるからでしょう。
仏教も、浄土真宗もその一つなんだと思います。

「小悲・中悲は、『歎異抄』で言われる、聖道の慈悲」にあたると思います。

「浄土の慈悲」とは、阿弥陀さまの本願他力のはたらきである「大慈大悲心」の現われであります。

「大悲」とは、『無縁』と言います。仏さまにしか出来ないから「大悲」なのですが、それな

に「無縁」と言うのでしょいか？ 無を対象とする」と言うことは、教えに縁があつて信じているから救われる、教えに縁がなく、信じてないから、救わないではないからです。

縁があるうが、なかるうが、確かに一人ひとり仏さまになっていく存在であり、今、成りつつあり、既に成つておられる。それが、究極の「多様性」であり、『普遍性』なのだと思います。

だから、どういう宗教を信じていようが、思想主義を持っていようが、皆、仏に成るということが、真理なのでしょう。

しかし、そのことを知らされても、よくわからないままの私でしかなく、直接的に縁のあることしか認識できないのでしょい。それも、自分中心の認識ですから、自分にとって都合の良いことだけを「縁」とか「おかげさま」と言っているような私です。

先ほど、仏教・浄土真宗も中悲の一つと申しました。

親鸞聖人は、『御消息』の中で、次のようなことを仰つておられます。

．．．縁といふは、一には無縁、二には有縁なり。いまこの浄土は有縁の教なりとあります。

阿弥陀さまの大慈悲を謳っているのであれば、浄土真宗の教えは「無縁」と言うべきもののように思えたのですが、仏ではない、私たちは、無縁の大慈悲など出来るものではなく、その大慈悲がはたらいていることを、有縁の方々々に伝えていくと言うことから、限界はあるでしょうが、そう努めることなのかなあと思ひます。

昔から、布教をする場合、阿弥陀さまの邪魔だけはするなと言われております。邪魔しているのかなあ。

稱讚寺を

覗いてみませんか。

いつでも、どこでも、稱讚寺のご本尊さまにご参りができます。



お手元のスマートフォンで、無料アプリ「iDMSS Lite」をダウンロードしていただき、ユーザー名・パスワードを入力するだけで、いつでもどこでも視聴できます。

詳しくは、この寺報「稱讚」二二〇号に同封いたしましたマニュアルに百二十五名まで視聴できます。尚、門信徒さん向けに配信しておりますことをご了承ください。



親鸞聖人御誕生八五〇年
立教開宗八〇〇年 慶讃法要企画

親鸞聖人を知ろう

親鸞聖人と東国の人々

今井雅晴氏

はじめに

最初に、私はこの講演でどのような考え方で皆様にお話をしようとしているのか、そのことを述べたいと思います。まず一口で申し上げれば、親鸞聖人は単に八百年もの昔に活躍されたということだけでなく、もっと現代の私たちに身近な存在として考えていこうではありませんか、ということですね。

私たちは現代という社会で生きています。そのなかで、親鸞聖人から何を学ぶことができるでしょうか。親鸞聖人から学ぶということは、ごく当然のことと思われるでしょうが、しかし私たちは現在の時点で学びなおすことがあるのではないかと思うのです。別のいい方をすれば、今まで学んできたことにつけ加えて、新たに学ぶべきことがあると思います。

私たちは江戸時代に生きていたのでもなければ、明治時代に生きていたのでもありません。近いところとはいえ、第二次大戦直後に生きていたのでもありません。前回の七〇〇回御遠忌がありました一九六一年に生きていたのでもあ

りません。たしかに、それぞれの時代にはそれぞれの社会的・家庭的また個人的課題がありました。私はそれらの課題が現在においてすべて解決しているとは毛頭思っておりません。まだまだ解決に向かつて努力していかねければならないこともありえます。しかし現在の私ども身のまわりを見れば、新たな、深刻な問題がいくつも起きております。その一つに人間関係のことがあります。

夫婦や親子の家族関係がうまくいかない。学校での人間関係がうまくいかない。会社においてもそのような問題が多く発生している。鬱病になる人が急増している。これらは私が二〇〇六年三月まで勤務しておりました大学の現場においても、深刻な問題でありました。

では、この人間関係の問題解決の糸口を親鸞聖人から学ぶことはできないでしょうか。できる、と私は考えております。本日の講演のテーマは親鸞聖人と東国の人々との関係を見ることですが、すけれども、この問題解決の糸口を求めたいということ念頭に置いております。

私たちは二〇一一年に親鸞聖人七五〇回の御遠忌（大遠忌）をお迎えいたします。現代の新しい家庭的・社会的課題に対して、私たち自身が努力することにより、親鸞聖人から学ぶことができるようにしたいと思うのです。

なお、引用史料の出典は、『正像末和讃』 夢告讃「恵信尼消息」は日本古典文学大系 親鸞集 日蓮集（岩波文庫）、『親鸞伝絵』 改邪鈔「信海等書状」は『實宗史料集成』第一巻 同朋舎）です。その他については、それぞれのところで説明をいたします。

親鸞聖人のイメージ

息子・善鸞を勘当した親鸞聖人

いま私は、私たち自身が努力することにより」と申し上げました。それはどのようなことかといえますと、親鸞聖人のことをもっと知るようにしなければと私自身が強く感じていることです。

私たちには、もちろん、親鸞聖人についての知識があります。このような方であつたらうとイメージもあります。しかしそれはおそらく、いままでそのようにいわれていたイメージを、私たちは思い浮かべているのではないのでしょうか。そのイメージの親鸞聖人は、家族関係について、私たちが切望する課題の答えを与えてくださるでしょうか。

親鸞聖人の妻の恵信尼さまや息子の善鸞についても同じことです。最初から最後まで親鸞聖人のよき妻、坊守の立派な手本としての恵信尼さまのイメージは、私たちに妻の生き方、夫婦のあり方に答えを示してくださるでしょうか。親不孝者として勘当されたときとされてきた善鸞から、親子のあり方の答えが見いだされるでしょうか。現代において、気に入らない息子・娘、デキの悪い息子・娘は家から追い出せば問題は解決するでしょうか。父親が「勘当だ」とわめくことで解決するとは、もうほとんどの人が思っていないのではないのでしょうか。精神的に病んだ息子・娘も多くなっている時代です。親の思うとおりにならないからといって、追い出すことはできません。抱え込み、抱きしめなければ問題は解決しません。それは家庭

毎月 親鸞聖人を知ろう」を掲載します

親鸞聖人が生きた時代の社会のあり方などを通して親鸞聖人の生涯を訪ね少しでもそのご遺徳を感じたらと思います

内だけではなく、社会全体としてもそうです。このように見てくると、いままでの親鸞聖人のイメージをもう一度見なおしていく必要があるということになります。現代の、私たちの問題や関心にそって見なおすのです。いままでの親鸞聖人像は、真実の、動かすことのできない親鸞聖人像であるというより、過去の時代のある時代の社会を背景にした見方によって作られたものです。善鸞を勘当した親鸞聖人」というイメージも、勘当が家庭内の教育と、社会の秩序維持に非常に有効であった時代に強調されたことなのです。

悪人正機説を強調する親鸞聖人

『歎異抄』第三章に次の文章があります。

一、善人なおもちて往生をとぐ、いわんや悪人をや。しかるを、世のひとつねにいはいはく、悪人なを往生す、いかにいはんや善人をや」と。
この条、一旦そのいはれあるにたれども、本願他力の意趣にそむけり。申略) 煩惱具足のわれらは、いづれ の行にても生死をはなるることあるべからざるを哀たまひて、願をおこしたまふ本意、悪人成仏のためなれば、他力をたのみたてまつる悪人、もとも往生の正因なり。よりにて善人だにこそ往生すれ、まして悪人は」と仰さふらひき。

この文章によって、親鸞聖人の教えの特色に悪人正機説があると有名人のです。親鸞聖人によれば、阿弥陀仏がほんとうに救いの対象としているのは、悪人であって善人ではない。煩惱具足の、自分ではほんの少しでも自分自身

を救うことはできない、阿弥陀仏に救っていただくしかないと自覚している悪人こそ、阿弥陀仏が広大無辺の慈悲をもって救おうとしておられる対象なのである。自分で自分自身を救えると考えている善人は、主な救いの対象ではない。悪人こそ救われる、これが親鸞聖人の教えだ、とされてきました。

ただ悪人正機説としてまとまった考えは『歎異抄』にしか書かれていません。それに『歎異抄』は親鸞聖人が執筆した書物ではありません。門弟の唯円が親鸞聖人の話を聞いてまとめたものだと考えられています。そして、本書全体がすべて親鸞聖人の考えどおりともいえな、といわれています。

それに鎌倉時代の親鸞聖人のいう悪人と、現代の私たちがイメージする悪人とまったく同じなのかどうかという問題があります。私は、多少異なるのではないかと考えています。今後、そのあたりの検証が必要ではないかということですが。

いづれにしても、親鸞といえは悪人正機説を思い浮かべる人が非常に多いことは事実です。

真宗の宗祖としての親鸞聖人

真宗の宗祖としての親鸞聖人。周知のとおり、親鸞聖人を宗祖と仰ぐ真宗は諸派に分かれています。この状態を通称して真宗十派といいますが、実際にはそれ以上あります。それらを真宗大谷派と称したり、浄土真宗本願寺派と称したりします。十派あるいはそれ以上を総称する場合、真宗といおうか浄土真宗といおうか、ためらうことがあります。私は、だいたい、両

方を口にいたしますが。

その真宗の宗祖としての親鸞聖人。当然ながら完全無欠の存在です。そのように伝えられてきました。自分が正しいと思う信仰を広めようとし、仲間を信仰を守り、さらに次の時代に伝えていこうとするならば、組織(教団)は、真宗のために有効です。諸真宗教団(諸派)は、真宗信仰のよすがを集め、それを守り、現代に伝えてきました。真宗信仰のよすが」というのは、親鸞聖人の真筆などです。

教団の宗祖としては完全無欠であることは必要でしょう。ただ問題が二つあります。それは第一に、誰が、いつの時代に、どのような内容を完全無欠として、宗祖のイメージを創り上げたかという問題です。時代が変われば完全無欠の内容も変わる可能性があります。しかしいったん強力に宗祖のイメージが創り上げられ、文章化されてしまえば、何十年も難百年も替わらない、ということがよくあります。

第二に、現代は宗祖にも人間らしさが求められつつある時代である、ということですが。端緒もあつただろうということですが。長所・短所はあるにしても、知るようになりたい。これが現代人の考えの傾向です。むしろ、欠点があつたとして、それをあげつらうのが目的ではありません。そのような欠点があつたからこそ、それを克服され、すぐれた人間として多くの人々の指導者になられた、と考えていくのです。

現代から見て、明らかにおかしい、不審だということをもそのまま信じ、次の世代に伝えていくことはもうできません。次の世代は信じてくれないでしょう。私たちはそのような覚悟を定めるべきでしょう。

唯物史観の親鸞聖人

一九六一年（昭和三十六）に挙行された親鸞聖人七〇回御遠忌のころの雰囲気は、現代から見ればやや異常な部分があったのではないでしょう。それは唯物史観による親鸞聖人像が幅をきかしていたことです。

朝廷・貴族を中心とする支配者たる古代勢力が没落せんとしている時代に、辺境である関東の荒野から立ち上がる親鸞。新しく、すばらしい勢力である武士。長い間支配者に虐げられてきた武士。彼らは今こそ立ち上がり、朝廷・貴族を倒そうとし、中世勢力の代表者としての幕府を作り、誰にも支配されない被支配者の社会を享受しようとした。

このような唯物史観のなかで、親鸞聖人はそのシンボルに祭り上げられたのでした。朝廷から弾圧されて越後に流され、関東の荒野で、難物も何も知らない無知文盲の人たちの間で苦勞した親鸞。彼は朝廷に恨み骨髄であった。

『戮行信証』のなかで、朝廷の実力者であった後鳥羽上皇と貴族たちを非難しているかに見える一行の文章を手がかりに、被支配者の希望の星とされたのです。したがって親鸞聖人の出身は貴族でないことが望ましい。妻の恵信尼さまも地方である越後の豪族の娘である方が望ましい。そのような雰囲気の中で親鸞聖人や恵信尼さまの一生も語られていきました。それは第二次大戦後の昭和二十年代、三十年代から四十年代の政治社会状況に強く影響されていたといわねばなりません。

そのころは保守対革新の図式で政治が激しく争われていました。保守すなわち資本家と、革

新すなわち労働者・農民の対立。自由党に対する社会党・共産党。世界では、旧勢力とされた資本主義と、新勢力に位置づけられた社会主義・共産主義とが争っていました。革新勢力の、全部ではないにしても、それを支える重要な歴史観が唯物史観でした。

親鸞聖人は革新勢力のシンボルに祭り上げられました。一九六九（昭和四十四）、政府打倒・大学改革を叫んで東京大学の安田講堂に立て籠もった全学連の一人が、『歎異抄』を持ち込んでいたということも、一つの挿話として残っています。

しかし時代は変わりました。それから四十年、親鸞聖人七五〇御遠忌を迎えようとしています。歴史学、思想史学、民俗学などの諸学問分野は長足の進歩を遂げました。たとえば、歴史学ではすでに、貴族と武士は対立する存在ではなかったとされています。関東も荒野であったのではなく、常陸国など豊かな経済力があつたことが分かっています。関東の人々は念仏を知らないどころか、逆に当時の日本全国で念仏と『法華経』、観音信仰が広まっていなかったのです。

それに、一九八九年からのソビエト連邦をはじめとする共産主義国家が次々と崩壊した事実を思い起こさねばなりません。人間社会を対立の図式で捉える唯物史観に重大な欠陥があることが明らかになりました。唯物史観が説くようには世界は動かなかったのです。

私はここで唯物史観を批判しようというのではありません。しかし同様に、現在では平成十年代、二十年代の社会情勢があるのです。その社会情勢をもとにして親鸞聖人やそのまわりの

ことを考えていくべきだと思っております。

※ 唯物史観

唯物論的歴史観の略であり、史的唯物論と同義である。十九世紀にカール・マルクスの唱えた歴史観である。その内容は、人間社会にも自然と同様に客観的な法則が存在しており、無階級社会から階級社会へ、階級社会から無階級社会へと、生産力の発展に照応して生産関係が移行していくとする歴史発展感である。

ヘーゲル哲学の弁証法（矛盾から変化が起こる）を継承しており、人間社会の歴史に適用された唯物弁証法（弁証法的唯物論）とも言える。しかし、唯物史観は弁証法的唯物論をそのまま適用したものである、と述べるマルクス主義者もいる。またフオイエルバッハやフランス唯物論者たちから唯物論を継承している。ウエキペディアより）

考え方

資本主義経済の仕組みを分析したカール・マルクスは、歴史はその発展段階における経済の生産力に照応する生産関係に入り、生産力と生産関係の矛盾により進歩するという考えに基づいて、唯物史観の概念を発展させた。生産関係とは、共同狩猟と食料の採集であり、封建領主と農奴の関係であり、生産様式、搾取、剰余価値、過剰生産、物神崇拜、資本の本源的蓄積などについて分析することで十九世紀当時の資本主義の論理を厳密に考察したのち、資本主義はその内在する矛盾から必然的に社会主義革命を引き起こし、次の段階である共産主義に移行する、と考える。ウエキペディアより）

※この講演は、十年前のものであり、現在さらに社会情勢は変わっております。コロナ蔓延、中国（共産主義）の勢い、軍事強化等々。世相に迎合しないしていきたいと思っております。

稱讚寺 行事予定

二〇二二年 四月の行事予定

- 四日(日) 日曜礼拝 午前七時
- 六日(火) のんのん法話会 午後二時
兼 灌仏会(はなまつり)
- 一二日(日) 日曜礼拝 午前七時
- 一六日(金) のんのん法話会 午後二時
兼 立教開宗記念法要
- 一八日(日) 日曜礼拝 午前七時
- 二五日(日) 日曜礼拝 午前七時
- 二六日(月) のんのん法話会 午後二時

たにん あやま み

他人の過ちは見やすく

あやま みがた

おのれの過ちは見難い

二〇二二年 心のともしび 四月カレンダーより

二〇二二年 五月の行事予定

- 二日(日) 日曜礼拝 午前七時
- 六日(木) のんのん法話会 午後二時
- 九日(日) 日曜礼拝 午前七時
- 六日(日) 日曜礼拝 午前七時
のんのん法話会 午後二時
兼 親鸞聖人降誕会
- 一三日(日) 日曜礼拝 午前七時
- 一六日(水) のんのん法話会 午後二時
- 二〇日(日) 日曜礼拝 午前七時

二〇二二年 六月の行事予定

- 六日(日) 日曜礼拝 午前七時
のんのん法話会 午後二時
- 三日(日) 日曜礼拝 午前七時
- 六日(水) のんのん法話会 午後二時
- 二〇日(日) 日曜礼拝 午前七時
- 二六日(土) のんのん法話会 午後二時
- 二七日(日) 日曜礼拝 午前七時

編集後記

私の町会では、毎月第二・第四日曜日は、朝、集団回収 古紙・新聞紙・段ボール等の資源を町会で回収し、区から報奨金をいただく制度。一月一万円から二万円ほどにもなり、町会の資金に役立っています。(をおこなっているのですが、二月の「二回目」の集団回収が終わった日に、町会員のある一人暮らしの高齢の方から、次の集団回収日には自分の古紙も集積所に運んでもらえないかと連絡がありました。以前二回運んだことがあるので、気軽に約束しました。翌週の日曜日、その方の資源を運ばねばと思い、玄関を出たところで、来週だと気付きました。そして、二月二十八日当日、朝、自分の資源古紙を集積場所に持って行き、午前中の外勤に出かけました。全くその方との約束は忘れておりました。その夜、お寺さんで法名紙を分けて頂いた帰り、あっ、やっちゃった」と急に思い出してしまいました。その方のお住まいに伺ってみました。外には、資源古紙らしきものが見当たりません。ノックしようかとも思いましたが、夜も遅いので、中に入れ直されたのが今日は連絡も無かったから、ご本人も忘れていたのだらうと自分に都合良く解釈して、帰りました。

翌日、法務から帰ってきたら、その方から電話があり、昨日はどうなされたのですかとおっしゃるので、申し訳ありません、すっかり忘れておりましたと申しましたら、えらく立腹で、先生とあるう人が忘れるなんて！もう信頼できない」とさえ言われました。これから引き取りに参りましょうかとも申したのですが、もう結構です」と電話を切って終わりました。お屋敷過ぎ、お詫ひ方、資源を引き取りに、その方のところを伺ったのですが、今更何しに来たという感じで、先生は、民生委員も連れていらっしゃるのですよね。忘れていたってことあるのですか。もう信用できません。のようなことをおっしゃるので、ただ謝るだけで、とりあえず、資源古紙を預かりますと言いましたが、ありませんよ」とおっしゃるので、どうされたのですか」と尋ねましたが、おたくがやることでもないでしょう」と突っ返されました。私の弁解も届かず、肩を落として帰るしかありませんでした。いい人に見られようと、かえって、信頼を失っているような私です。こんな私も来年、還暦を迎えます。あなた、そこに救いはあるのかえ」と問われているようです。